

第67回大会 <戦評>

諏訪中会場

【Aコート】

○準決勝 ひと美が率いて勝ちまっ諏訪(諏訪中) 16-26 宮川牛山丸(宮川小)

準決勝一試合目は、1回戦で城北小の猛烈な追い上げを振り切って辛くも勝利した諏訪中と、同じく1回戦では拮抗した前半戦から、メンバーチェンジによって体力を温存した宮川小の対戦となった。試合開始、諏訪中の#2小林が、前線に走り出し速攻を2本、リバウンドをとってバックターンからのゴール下のシュートをねじ込み、立て続けに得点を決めて一気に6点差とする。対する宮川小の#3の田中が、ジャンプ力を生かしたオフENSリバウンドからゴール下のシュートを決めて反撃の狼煙を上げる。さらに、女性選手の宮川小#1の伊藤が、3ポイントラインから、本当の3ポイントを決め、1点差をする。諏訪中の高身長センター、#1高坂がゴール下を堅守し、リバウンドからの速攻でさらに得点を重ね、10-6で前半を折り返す。

後半戦開始早々、ついに上着を脱いで半袖とバスパン姿になり、ウォーミングアップ万全となった宮川小#3の田中が、キレのあるドライブで得点を決め、さらに#2の宮阪もフロントコートからの果敢なディフェンスで、燦銀のプレーで得点を決め追いつこうとする。諏訪中の#1高坂も負けじと、インサイドを攻め、ロッカーモーションから混戦のゴール下のシュートを連続して決める。なかなかインサイドを攻められない宮川小は、外からのシュートで得点を狙う。試合の流れを変えたのは、宮川#3田中の3ポイントシュート。これで同点に追いつくと、さらに#3田中、そして#1伊藤も3ポイントを決めて点差を引き離れた。拮抗した好ゲームを制した宮川小が二年連続で決勝戦に駒を進めた。



○準決勝 セイブオールスター(岡谷西部中) 15-33 歯ッピー四賀(四賀小)

準決勝二試合目は、1回戦で上の原小を多くのメンバーを入れ替える戦術でゲームを制した岡谷西部中に対し、巧みなパス回しと外郭からのシュート力で強敵の富士見中をダブルスコアで圧倒した四賀小の対戦となった。岡谷西部中の注目は、前の試合で12点を決めた#10の中島と、女性として4本のシュートで同じく12点を稼いだ#9の小平が中心となる。対する四賀小は、#8五味と#13椎名、そして#10竹内の3人が軸となりパスを回して相手を翻弄する。ゲームは、#8五味が果敢なドライブでインサイドに切れ込み得点を量産する。#13椎名も高いジャンプ力を生かし、ディフェンスだけでなくオフENSリ

バウンドにも飛び込んで得点する。まさに、「ゴール下を制する者はゲームを制する」の理の通り、ゲームを支配していく。岡谷西部中も#6武居の得点などで食い下がるも、大量リードを許し、前半を7-19で折り返す。

後半戦は、岡谷西部の#9小平が、3ポイントシュートを立て続けに2本決めるが、リードする四賀小の#10竹内や#8五味も3ポイントシュートで応戦する。1回戦では選手交代で体力を温存していた岡谷西部もメンバーを固定するため、だいぶ疲労が見られる。さらに得点源の#10中島とディフェンスの要である#11北沢がファールトラブルに見舞われ、積極的なディフェンスができない。そんな中、諏訪郡内バス界の重鎮である岡谷西部中#2の滝澤が、ベンチエリアに立ち続け、大きな声で叱咤激励する姿に心打たれる。まるで部活の指導のような熱心さは、バスケットをこよなく愛しているからこそだ。点差こそ離れてしまっても、最後まで一生懸命にバスケットボールを追い続ける両チームの選手らに、教職員バスケの真の目的を改めて教えられる好ゲームであった。

【Gコート】

○決勝戦 スマイル富士見レディース(富士見小) 12-25 すわよーいはじめ(諏訪養護学校)

両者、1回戦から勝ち上がり3試合目となる富士見小対諏訪養護学校による決勝戦。諏訪養護学校は連覇を目指す。

前半富士見小は#8中村のシュートから始まる。一方諏訪養護学校は#8中島のシュートから流れをつかみ一気に得点を重ねる。富士見小も#10清水の連続得点で追い上げを図るが、その間に#7奥原によるアシストで得点を重ねた諏訪養護学校がリードし、6-10で折り返す。

後半得点を縮めたい富士見小は#10清水や#8中村のシュートで追い上げるが#7奥原の3ポイントや#6両角の連続得点により差を広げられる。なんとか追いつきたい富士見小だが3試合目の疲れからなかなか得点が奪えない。結局そのまま諏訪養護学校がリードを保ち25-12で勝利。連覇を果たした。



○2回戦 岡北斗の薔薇(岡谷北部中) 13-27 スマイル富士見レディース(富士見小)

初戦を快勝した富士見小と、シードにより2回戦からの登場となる岡谷北部中による2回戦。前半、富士見小は#14五味の3ポイントから流れをつかみ、#9保屋野、#10清水の得点で一気に得点を重ねる。岡谷北部中も得点を重ねようと果敢に攻めるが、富士見小

の守備に阻まれ、なかなか点数を重ねることができない。そのまま富士見小がリードを保ち、4-15で折り返す。

後半、岡谷北部中は#6青山の3ポイントや#2神津の得点で追い上げを図る。しかしすかさず、富士見小も#9保屋野、#10清水、#14五味の得点で、追い上げを許さない。その後も岡谷北部中が#4笠原や#3名取がシュートを決めるが、無念にもタイムアップ。結果、27-13で富士見小が終始リードを保ち、勝利した。

【Iコート】

○第1試合 「玉川マヨネーズ」(玉川小) 9-23 「城南しゅうちゃんず」(城南小)

昨年、校長同士による得点の取り合いとなった玉川小対城南小の因縁の対決。今年も城南小は#4守屋校長の先取点で好調な滑り出しを見せる。更に#5野村教頭が前半だけでなんと5本もシュートを決める大活躍。一方の玉川小も#1畠山校長がシュートを決めたものの、前半の得点はこの2点のみ。15-2と大差がついてしまった。

後半、玉川小は#7山本、更に#1畠山、#4櫻井の女性3ポイントで追い上げを見せようと奮闘する。しかし、城南小は、#4守屋、#5野村がそれぞれ2本ずつのゴールを決め、追いつがる玉川小を更に突き放す結果となる。

結局、23-9で、試合は終了。城南小が玉川小を破り、勝利した。

○第2試合 「城南しゅうちゃんず」(城南小) 28-13 「宮川牛若丸」(宮川小)

前半、城南小は#4守屋のシュートで先行する。その後、#10百瀬が女性3ポイントを連続して決め点差を広げる。更に#5野村が3連続でシュートを決め、前半を18-0の大差をつけて折り返す。

後半は、宮川小が反撃。#7伊藤の3ポイントを皮切りに、#3坂本、#4両角が連続してゴールを決め、じりじりと点差を詰める。しかし、城南小も#3小林のパス回しから#8渡辺が2連続でゴールを決め、詰まった点差を引き離しにかかる。宮川小は何とか追いつこうと#7伊藤が2連続で女性3ポイントを決めたが、城南小#9小口も女性3ポイント2本を決め、宮川小の追い上げを許さなかった。

結局、28-13で城南小が勝利を収めた。2勝した城南小が、昨年に続きマスターズ会場での優勝の栄冠を手にすることとなった。



長峰中会場

【Bコート】

○準決勝 高島ナンプラーズ(高島小) 26-23 ボンビラージュ原中(原中)

互いに実力者がそろった高島小と原中の決勝進出をかけた一戦。高島小は#3小川、#1片桐を中心にミドルシュートや3Pシュートでスタートダッシュを図るが、原中#6両角の激しいディフェンスに阻まれ、思うように得点できない。一方で原中は#6番両角のスピード感あるボール運びからの速攻や3Pシュートで着実に得点を重ね、徐々に点差が開き、10-4で折り返す。

このまま原中ペースで試合が進むかと思われた中、後半高島ナンプラーズのアウトサイドシュートが目覚ます。#1片桐が3Pシュートを決めると#5原も続けて3Pシュートを沈める。原中も#2野澤の3Pシュートで応戦するが、#1片桐がファウルを受けながらも強引にシュートまでもっていきバスケットカウント1スロー。これを冷静に決める。高島小が同点まで追いつき、試合は延長戦までもつれこんだ。延長戦は両チーム粘り強いディフェンスで一歩も譲らない展開となるが、原中#6両角がフリースローを2本沈め23-23になったところで高島小がタイムアウトをとる。時間は残りわずか。サイドから高島小のスローインではじまった最後のワンプレー。高島小#1片桐がインサイドから開いてスローインを受け、そのまま3Pシュート。これが決まり、高島小の劇的な勝利で試合は幕を閉じた。

○決勝 長峰フロンティアスピリッツ(長峰中) 40-26 高島ナンプラーズ(高島小)

準優勝に終わった昨年のリベンジに燃える長峰中と#1片桐、#3小川を中心に今大会注目の高島小の決勝戦。試合は高島小#6山田、#8濱がシュートを決め、安定した得点力で高島小リードでスタートする。長峰中も#10高木のゴール下、#5杉山の速攻で食らいつく。高島小は長峰中の2-3ゾーンディフェンスに対してアウトサイドシュートで得点を狙うがこれが思うように決まらない。一方で長峰中は#10高木が高いジャンプ力と滞空時間でインサイドを制し、リバウンドから次々とゴール下シュートを沈めていく。前半は24-16の長峰中リードで折り返す。

後半は長峰中が#5杉山のドライブでディフェンスのずれをつくり、前半好調の#10高木にボールを集める。高島小のディフェンスがインサイドに寄れば長峰中#1名取、#2飯田が安定したミドルシュートを決めるという展開。高島小は連戦の疲労もあり、徐々に足が止まり始める。それでも終盤は高島小#1片桐、#3小川が長峰中#5杉山にダブルチームを仕掛け、インターセプトから3Pで逆転を試みる。しかし反撃もここまで。長峰中が逃げ切り、悲願の優勝を果たした。

【Hコート】

○準決勝 茅野東部デビルファイヤーズ(茅野東部中) 14-12 歯ッピー四賀(四賀小)

初戦の接戦を制した四賀小と、4連覇がかかる茅野東部中。四賀小は、#1中村が、力強いドライブからのミドルショットを確実に決め、安定した力を見せつけて東部中を苦しめる。一方、東部中は初戦ということもあり、オフェンスもディフェンスもなかなか堅さが取れずミスが目立った。そんな東部中の窮地を救ったのは東部中#5朝倉だった。するどいドライブでスペースに切り込んでミドルショットを確実に決め、得点を重ねていく。東部中は、#5朝倉のプレーと#7小口の粘り強いリバウンドで試合のリズムを掴むが、四賀小も#6堀内と#7小林が得点して追従を許さない。前半は10-10の同点で折り返した。

後半は、両チームとも堅い守りで要所を押さえ、簡単にシュートチャンスを与えない展開となった。均衡を破ったのは東部中#5朝倉のシュートだった。だがその直後、四賀小#2宮坂が得点し、またも同点となった。後半終了間際、東部中はパスカットからの速攻で#6小林が放ったシュートが決まった。その後も四賀小は、東部中の堅い守備を崩せず、そのまま東部中が逃げ切り、14-12で東部中が勝利した。

○決勝戦 茅野東部デビルファイヤーズ(茅野東部中) 12-10 玉川パセリーズ(玉川小)

1回戦の接戦をものにした茅野東部中学校と、#4西川を攻撃の起点とし、シュートを確実に決めて2回戦を突破した玉川小学校の決勝戦。両チームとも堅い守りで、簡単にシュートチャンスを与えない拮抗した展開となった。

4-1とロースコアで折り返した後半開始直後、玉川小#5栗岩が3ポイントで同点に追いつき、東部中は作戦を立てるためタイムアウトを取る。タイムアウト明け、#3宮原と#2金井の粘り強いディフェンスで、パスカットが立て続けに成功し、#5朝倉がするどいドライブで切れ込み、得点を重ねた。東部中は、このまま玉川小を突き放そうとするが、玉川小は速いパス回しでディフェンスを引きつけて、#5栗岩と#6笠原のミドルショットを確実に決め、一進一退の攻防が続いた。

試合が動いたのは後半残り3分。東部中はパスカットからの速攻で#5朝倉からのパスを#1降旗が受け、得点を重ねた。その後も粘り強いディフェンスで相手からボールを奪い、#5朝倉がミドルショットを決めた。苦しい展開が続いたが、東部中がそのまま逃げ切り12-10で勝利。4連覇を果たした。

諏訪南中会場

【Cコート】

○1回戦 今、羽ばたけ!岡谷田中小(岡谷田中小) 21-28 豊平メテオジャム(豊平小)

小学校同士の対戦。どちらも女性が堂々とプレーし、長身プレーヤーがリバウンドを拾うという同じタイプのチーム。混戦が予想される中、先制したのは岡谷田中#5清水。これで試合が動き出すと、お互い主力選手を中心に攻め出す。抜け出したのは豊平。#5戸澤のカットイン、#3伊藤の速攻で7-2と差を広げ出す。流れを変えたい岡谷田中は女性#6山田の3点シュートが見事に決まり流れを取り戻す。前半は11-7と豊平小がわずかにリードして終える。

後半開始早々、岡谷田中小が#3坂田、#5清水が連続得点を挙げ、同点に追いつく。追いつかれた豊平は#7小林の素早いレイアップで差を広げる。なかなか点差が広がらない試合を決めたのは豊平小のツーセンター。#5戸澤、#7小林がゴール下のポストプレーで確実に得点を重ね、21-28で勝利を収めた。

○決勝戦 Team 373 (諏訪南中) 13-18 剛勇無双永明中 (永明中)

会場校で決勝戦進出常連校の諏訪南中と、昨年度も優勝を果たした永明中との決勝戦。両者とも、激戦の準決勝を制して勝ち上がってきた。

試合開始から序盤にかけて、永明中が女性#4依田のシュートを中心に得点を挙げて流れをつかむ。諏訪南中も素早い攻撃で反撃を試みるが、準決勝まで失点が少ない永明中の守りを切り崩せない。ここで諏訪南中がメンバーを変えて反撃開始。#中村の鋭いカットインから得点を挙げ、徐々に差を縮める。前半は11-6で永明中がリードして後半へ。

後半は両チームともここまでの連戦の疲れが見え始める。しかし、両者の実力は拮抗し、なかなか得点が奪えない展開が続く。この状況を打破したのは、永明中の外角からのシュート。#8林や#3笠井がミドルシュートで得点を挙げ、差を広げる。なんとか追いつきたい諏訪南はゴール付近までボールを持ちこむが、思うようにフィニッシュが決められず、得点差を縮められない。#3清水が3Pを決めて意地を見せるが、守り勝った永明中が18-13で勝利し、連覇を果たした。

【Eコート】

○1回戦 おい!かわいい男 (小井川小) 22-14 リゾート北山 (北山小)

お互いに緊張する初戦。どちらも先制点を早くに決め、試合の流れを自チームに引き込みたいという両者の思惑が感じられる。そこで、先にペースをつかんだのは、小井川小であった。#1長田の巧みなボールコントロールから、ディフェンスの隙をついてのドライブが効

果的に決まる。そして、ディフェンスが寄ってくれば、パスをさばいてアシスト。寄ってこなければ、自らのレイアップ。そんな小井川小の攻撃が功を奏し、6点を先制する。しかし、北山小も負けてはいない。先制されたものの、#4山本の3Pシュートもあり、必死に食い下がる。その後互いのディフェンスを崩すことができず、前半は6-5で折り返した。

迎えた後半、両者のシュートが決まりだす。小井川小は変わらず、#1長田がディフェンスのズレを作り出し、ゴール下に走りこむ#5所にラストパス。この展開で着実に得点を重ねていく。対する北山小も、#4山本、#11小池の連続3Pシュートなどが決まり、拮抗した時間が続く。しかし、やはり最後に試合を決めたのは小井川小#1長田だった。パスカットから連続のレイアップシュートを決め、22-14で試合終了。度重なるシーズンゲームを制したのは小井川小であった。

○決勝戦 オカトープラックス（岡谷東部中） 41-8 おい！かわいい男（小井川小）

岡谷東部中、小井川小、ともに接戦を勝ち抜いてきた両者。こちらも接戦になるのではないかと予想された。しかし、小井川小にアクシデント発生。これまでチームの主力として、活躍していた#1長田が2回戦のルーズボールで負傷した箇所が回復しないということで、この試合欠場。一気に苦しい展開に変わる。その予想通り、岡谷東部中は#5佐藤のレイアップシュート、#24石井の3Pシュート、#1小野の1ON1からのドライブ、#13片瀬のゴール下など、一挙24点を奪う。小井川小は、ディフェンス、オフense、どちらのリズムもつかむことができず、0得点。前半は24-0で折り返した。

後半に入っても、岡谷東部中の優勢は変わらない。後半から出場した#14鮎沢の連続のミドルシュートが決まる。しかし、ここで、意地を見せたのが、小井川小#5所であった。ゴール下でパスを受け、そのままシュートをねじこみ、この試合初得点。これを皮切りに#5所の連続得点で小井川小ベンチも一気に盛り上がる。しかし、序盤のリードを取り戻すまでには至らず、41-8で試合終了。岡谷東部中が、圧勝で、久しぶりの優勝を果たした。

岡谷南部中会場

【コート】

○準決勝 岡南斗聖拳（岡谷南部中） 39-25 南っ子魂（下諏訪南小）

2連覇中の岡谷南部中と1回戦を34点差で勝ち上がってきた下諏訪南小の対戦となった。試合序盤は拮抗した展開になった。岡谷南部中#3宮澤がミドルシュートを決めると、下諏訪南小は#6花岡がお返しにミドルシュートを決める。一進一退が続くなか、前半残り3分、#7佐藤真也が3Pシュートを決める。このシュートで勢いに乗った岡谷南部中が前半を19-10の9点リードして折り返す。

後半も岡谷南部中の勢いは止まらない。# 1 佐藤守がインサイドへドライブし、守備を収縮させたところへ# 3 宮澤へパス、このミドルシュートを# 3 宮澤がしっかり決め、点差を広げていく。下諏訪南小も# 7 大江のインサイドプレーなどで得点していくが、追いつくことはできず、終わってみれば39-25の14点差で岡谷南部中が決勝進出を決めた。

○決勝戦 岡南斗聖拳（岡谷南部中）25-30 茅野東部デビルファイターズ（茅野東部中）

Dコートの決勝戦は1回戦、準決勝ともに2桁得点差をつけ、盤石な勝ち上がりをしてきた両チームの対戦となった。序盤は茅野東部中ペース。# 11 橋本の3Pシュートで先制すると、# 9 田中のシュートも決まり、0-5のランを見せる。岡谷南部中も# 8 中村のフリースローや# 1 佐藤守のレイアップシュートなどで得点するが茅野東部中の勢いを止められず、前半を9-18の茅野東部中リードで終える。

後半も茅野東部中のペースで進んでいき、このまま試合終了かと思われたが、ここから岡谷南部中が盛り返す。# 4 坂本がシュートを決めると、# 8 中村もOFリバウンドから連続バスケットカウントを決める。対する茅野東部中も# 9 田中が3Pシュートを決め、残り2分を残し、25-25の同点に。均衡した試合を決めたのは茅野東部中# 4 土屋の3Pシュートだった。この試合1本も決めていなかった3Pシュートを土壇場のこの場面で決めきり、試合終了。25-30で茅野東部中が激戦を制し、優勝した。



【Fコート】

○1回戦 下諏訪ヒロキーズ（下諏訪中）14-13 チーム神中（上諏訪中）

諏訪地区の対決。上、下対決。前半終わって、6対2。上諏訪中# 9 宮澤の右からのドライブでファールをもらい得点を決め2点差をつける。その後、シュートを両チーム打つがリングに嫌われる。# 10 橋本のシュートにより点差を広げ前半をチーム神中がリードして終わる。

後半は、すぐさま下諏訪中の# 8 の小林がシュートを打ち6対4にする。5分すぎ、# 6 大日方のドライブから# 10 伊藤がシュートで同点。チーム神中がゾーンを崩し、ゴール下で# 7 の笠原が決める。9対6で逆転。一進一退の攻防が1分以上続く。上諏訪中# 9 宮澤のドライブで味方がシュートを決め、13-10と突き放す。残り、2分へ突入。下諏訪中# 6 大日方と# 7 樋口により大逆転。ここで、タイムアウト残り1分23秒。14対13。残り8秒で# 12 楯岩の3Pシュートが外れ。# 6 大日方がボールをキープし、試合終了。接戦を下諏訪ヒロキーズが制した。

○決勝戦 中洲がくる（中洲小） 16－30 岡北斗の拳（岡谷北部中）

出場選手がベンチを含め5人しかいない中着実に勝ち進んできた中洲小と一試合目から快調に勝ちを重ねてきた両校による決勝戦。試合は岡谷北部中#2赤羽のシュートから始まる。序盤は#2赤羽、#9松林らの外角のシュートが立て続けに決まり、岡谷北部中がリードをする。しかし中洲小学校もパス回しやインサイドを使った攻めを展開しゾーンを崩し#6田村らのシュートにより拮抗した展開に。前半5分を過ぎたころ中洲小#5松澤が足をつるアクシデントが発生する。一時試合中断をし、再起をしたがまた足をつってしまい中洲小は4人でプレーをすることになった。けれどもその様子を見た岡谷北部中もメンバーを一人減らす粋な計らいを見せ、4対4で残りの前半が行われた。

後半は足をつった選手も復活しプレーを行ったが岡谷北部中が前半の勢いのまま勝ち切り優勝を果たした。

しかし勝敗よりも先生方のスポーツマンシップあふれる行動が光る、とても気持ちの良い試合になった。

